

みんなで作ろう

2011/9/1

里山自然公園

N010



発行 信太山に里山自然公園を求める連絡会
連絡先 信太の森 FANクラブ 0725-44-8404

e-mail hanaizm@ares.eonet.ne.jp

請願・要望署名提出

8月24日

市長への要望書 10,763筆!

議会への請願も 10,250筆!



辻市長へ要望書を提出する連絡会 山千代会長



みなさんから寄せられた10,763筆の署名の束、
関西TVの取材カメラも回りました。

目標を超えた署名

8月24日、「信太山に里山自然公園を求める連絡会」は、代表6名で和泉市長に対する「要望署名」と和泉市議会に対し「請願署名」を提出しました。

辻和泉市長は「1万人を超える署名は厚く受け止める」と応え、約20分話し合いをしました。「請願署名」は小野林市議会議長が受け取りました。

どちらの署名も、当初考えていた目標7,000をはるかに超え、1万筆をオーバーしまし

た。

和泉市長への要望書・10,763筆
議会への請願 ・ 10,250筆

署名を呼びかけた団体としまして署名に取り組んでいただいた皆さんや署名にご協力をお願いしたすべての皆さんに深い敬意と厚い感謝を申し上げます。

今後、このみなさんから寄せられた声を背景に和泉市に対し信太山丘陵の保全と活用を求めていっそう運動を強化していきたいと考えています。

市長との対談



2011年8月24日 署名提出

市側（市長、庄司政策企画室長 他）

出席（山千代、西念、藤並、菱木、田丸、花田）

市長「おはようございます」

連 「要望書を朗読」「10763名の署名を添えて要望いたします。」

連 「1万人の要望に応じて市長のコメントをお願いします」

10, 763筆厚く受け止める

市長「10763名の方が署名されていることを厚く受け止めます。」

これだけの人が自然を残してほしいという想いで署名されていますが、何度も申しあげている通り、この土地を取得した当時の目的がスポーツ施設ということで、それ以来見直すことはしてこなかった。8年間見直してこなかったのが、今、どうしますと云うことは云えませんので、自然の中身は検証してきましたし、どうやって自然を残しながら活用していくか考えていきたい。」

「当初の計画からは、大規模なスポーツ施設はそぐわないということはおもう議会でも答弁させてもらっている通りです。」

連 「大規模な開発は見直すと云うことですが、春以来『環境に配慮したスポーツ施設』をコンサルに絵を描いてもらい検討すると云ってきた方針は、どうなっているのか？未だにコンサルへ発注されない経過はどうなっているのか？」

市長「当初、担当課の方でコンサルへ委託して一定のたたき台をつくり話を進めたいと考えてきたが、議会のみなさんやみなさんからの要望や指摘を受け、もう少しわれわれの考えが進んできた段階でコンサルへ委託しようとうことにした。」
「そうでないと無駄な費用になる」

ワークショップ・意見を聞く場は

連 「もう1点、計画を練っていく上で、学者や地元住民等の意見を聞く場を設定するとおっしゃっているながら実現していないので、その辺の見通しはどうか？」

市長「まだ、もうちょっと時間がかかる。ワークショップとか意見を聞く場は、自然を守ると云う人たちだけでなく、スポーツを振興してほしいという多くの人たちの意見も聞かせていただく場としたい。」

連 「それは、庁内の方針が出て、コンサルに委託する前ですね？」

市長「いや そこは・・・。」

庄司政策企画室長「現実にはコンサルへ委託していません。とにかく庁内で市としての考え方も当然必要になってきますので、その辺を一定提示しまして、庁内会議も環境保全課も入っていただいて、現地調査の結果も出ていますのでそれらを含めて庁内である程度煮詰まったところで、長期的には当然意見を聞かねばならないと思うんです。」

連 「コンサルへの委託は事業設計ではなく検討のための絵柄についてですね。」

庄司「何パターンかの絵柄、環境の保全をしながらどこまでできるか 3パターンぐらいをつくらにゃあかんと思っている。そのときには、みなさんの意見を当然お聞きしたいと思っている。」

連 「ぜひ、そうした場を設定してほしい。パブリックコメントという場があるが、欠陥もあるし、市民の見解が反映されるとは思えません。それだけで、市民の意見を聞いたということのないよう」

市長「パブリックコメントは十分とは云えない」

連 「見通しは」

市長「今のところ、24年、25年で見直し・・・」

庄司「23年、24年であり方を検討するという
ことで、25年に決定するという
ことで。減23年度が遅れているので一寸後にずれ込
むかなと思っている。」

25年にずれ込むことも・・・?

連「再生プランでは23年、24年に検討する
と
なっているが25年にわたることもあり得
ると
いうことか」

庄司「23年度になって検討委託が未だにでき
て
いない。多少ずれることになる。」

連「委員会をつくる時期はいつ頃とお考えか？」

市長「委員会？意見を聞く場ですか、来年ぐ
ら
い・・・。」

連「平成24年ということですね」

連「コンサルへ委託する前にわれわれの意見
を
聞く場はないのですか？」

仕様書には意見を聞く

庄司「コンサルへ発注する際、仕様書を出す。
仕
様書には一定意見をお伺いしようとは思
っ
ている。」

連「事業設計ではなく検討のための委託の
こ
と
ですね。」

庄司「そうです」

市長「いただいている里山自然公園の絵も参
考
に
しながらしていく。」

連「計画に対しいろんな意見があるとは思
う
が
今回の震災など見たとき、自然を残して
い
くことがすごく大事だし大阪の市街地に
隣
接したところにこれだけ色濃くいろん
な
生き物がいるところは他にない、やっぱ
し、和泉市の誇りにしたいと思うし、こ
こ
にスポーツ公園を作ってしまったら恥と
も
なって、将来にわたって100年、200年
の
スタンスでみたら、今何を残すべきか自
ず
から明らかだ。1万人の市長をお願いす
る
という願いを聞いてほしい。」

市長「私もPTAの署名に取り組み、7000筆
ほ
ど
集めたが、町内会などみんなが協力して
や
ったできた数字だ。1万人はすごい。」

連「今回7000を目標にした、前回2年前4
5
0
0筆余りだった。今回署名の45%は和泉

市民で、市外の方がやや多くなっているが、
信太山が和泉市にあって和泉市のもので
ない、府下や各方面から期待されている反
映だ。」「べ切りを過ぎてもどンドン送ら
れ
てきた、提出用にべをしたのは昨夜の深夜
だ。」

「ぜひ、この声を真摯に受け止めてほしい」

市長「はい」

連「何かしようとあの土地を買った。だけ
ど
里山自然公園として残すとしたら、何もつ
く
らないのはもったいないという声がある
が、発想の転換だと思う。これだけの生物
多
様性の土地を何十億円出してもつくる
こ
とは不可能です。20億のお金でこれだけ
の
自然が購入でき、それを保全していくん
だ
ということはまさに和泉市の宝ができ、
和泉市の値打ちが上がることになる。大阪
府
下でも生物多様性が叫ばれているとき、
非
常に注目される施策になると確信して
い
ます。」

請願

市内	4,601	44.70%
市外	5,649	55.30%
計	10,250	100%

要望

市内	4,890	45.30%
市外	5,873	54.70%
計	10,763	100%

署名の市内・市外の割合

市長はリーダー性を!

今回、鶴山台では、1時間の内に180名余
り
が署名してくれた。のぼりを見て、駆け
寄
って書いてくれた人もいた。そういう
風
に人々の心が変わってきている。計画さ
れた平成10年から15年頃の自然に対する
見
方と大震災の後では大きく異なってき
て
いるように思う。自信を持ってリーダー
性
を発揮してもらいたい。
私
らは市長を後ろから支える意味で署名に
取
り組んできた。押しつけるのではなく後
ろ
から支えているのだ。」

市長「分かります 分かります」

「行政目的で税金を投入した経過はある。後で調べたら希少種があるので貴重だから何もできないというのでは説明がつかない部分もあるので十分検討していきたい。」

連 「里山自然公園の第一次案を市長に渡していますがたたき台として大いに参考にさせていただきたい。」

市長 「いただいた書類、設計をみましたら、原生林的部分はないと云われていますね。」

連 「原生林的なものはありません。全部二次林で最近は樹林化しており、里山の全国的な特長をここでも著しています。草原、湿地が浸食されている。だから、今を、信太山の最後の機会と考えている。こんな状況を何年も放置しておけば湿地も草原もなくなって、コナラ林や松林になり、生物多様性の特性も著しく減っていく。本当に最後のチャンスという風に思っている。」

市長 「今の状態を戻すために植林の必要があるのか？」

連 「植林の必要はない」

連 「むしろ管理が大切だ。マツなどの間伐、枝払いなど・・・」

市長 「木が大きくなると湿地に影響はしないか？」

連 「そういう懸念はある、また。自衛隊が植樹したものなど伐採したい部分はある。」

「保全の方向が出れば、みんなで検討してもらいたい。人の手を加えなければあの自然は残らない。里山の持つ性格だ。」

連 「泉北に連なった丘陵は古墳時代の窯跡が集まっていたがほとんどがなくなった。」

市長 「須恵器ですね」

連 「日本の窯跡 六古窯の原点はこの地だ」

市長 「登り窯か」

連 「登り窯ではなく穴窯といい、山を掘って窯にしていく。登り窯は江戸時代挑戦から伝わった。」

「陶をスエと呼び、この地が発生が一番古い。

この計画地も十分可能性がある。」

以下、ビデオの採録取り直しがあり、話し合いは時間切れで終了した。

(11/8/24/午前9:00~9:25分)

文責 (花田)

市議会への請願は



小野林市議会議長へ提出

市議会への「請願署名」は24日、小野林議長へ提出しました。

3名の紹介議員

「請願」では、紹介議員が必修となります。(紹介議員がなければ陳情の扱いです) この度の請願で、各派・各党に要請しましたがレインボーの小林昌子議員、大橋涼子議員、日本共産党の早乙女実の3氏に紹介議員となっていただくことになり「請願」扱いとなりました。

この後、議事運営委員会(9月6日予定)で付託する委員会を決定し、9月中頃からの委員会での審査が始まります。事務局の話では、「都市環境委員会」になるのではないかとのことです。

参考人として意見陳述が可能に

ところで、和泉市では請願に関する条例が変更され、請願者にも委員会審査の際参考人として出席(2名)し、請願の理由を述べることができるようになりました。今回の請願がその適応の1号になります。提出後の事務局との手続きに際し、請願者の山千代重榮会長と事務局長の花田が参考人になることを届け出ました。

請願採択ゼロとか

和泉市議会での請願は一部修正採択という例をのぞき採択はゼロということを知ります。第1号採択をめざして奮闘していきます。いっそうのご支援を!